

インフルエンザワクチン接種について

医事委員長 山澤文裕

2010年9月12日

陸上競技選手、指導者の皆様は、本年11月の広州アジア大会、引き続き冬のマラソン、駅伝シーズンと、練習に余念のないことと思います。

さて、昨年4月にメキシコで発生が確認された新型インフルエンザA H1/N1が、日本を含む世界中に拡大したことは皆さんもよく覚えていることと思います。すでにA H1/N1インフルエンザにかかった方は、同じ型のインフルエンザに再び感染しても重症化しにくい免疫力を持っていますが、かかっていない多くの方は、そのような免疫力はなく、A H1/N1インフルエンザにかかりやすい、もしくはかかったら重症化しやすい状態です。

A H1/N1インフルエンザに感染し、発症すると、高熱、咳、頭痛、咽頭痛、筋肉痛、関節痛などが出現し、重症化すると呼吸困難、下痢、痙攣、意識障害をきたすことがあります。とても練習や競技会出場などはできませんし、他の方へ感染させることにもなり、個人およびチームの危機管理としてしっかりと対策を立てる必要があります。

インフルエンザの予防策は、手洗い、うがい、人ごみに出ない、咳をしている人の近くに寄らない、などの日常の注意と、インフルエンザワクチン接種を受けることです。

今年のインフルエンザワクチンには、A H1/N1と季節性インフルエンザに対する成分が含まれています(3価ワクチン)ので、A H1/N1にかかったことのある人も含め、関係者全員がインフルエンザワクチン(3価ワクチン)を受けるようにしてください。ワクチン接種は1回で良く、10月から各医療機関でインフルエンザワクチン接種を開始しますので、早めに医療機関にご相談ください。

なお、ワクチン接種に当たっての費用は個人負担です。ワクチン接種に関する諸注意や副作用などについては、事前に必ず確認してください。